

# 医療は誰のもの

地域医療構想を考える

「入院2、退院1、空床に真誠会グループが事業展  
2。退院調整中は現在、自開する老健、特養、グルー  
宅4、ゆうとびあ(強化型  
介護老人保健施設)2、ケ  
アハウス2。  
今週は入院2  
の予定です」  
「こちらの  
入所調整は現  
在、米子医療  
センター、博  
愛病院から各  
1です」  
米子市河崎  
の真誠会セン  
トラルクリニ  
ック(19床、  
小田貢院長)  
に隣接するゆ  
うとびあ。テ  
レビ会議のス  
カイプ中継装  
置を備えた二室で「ベッド  
コントロール情報共有の  
会」が毎週月曜日午前10時  
から開かれる。  
スタッフは診療所を中核

## 第3部 有床診療所の今

# 医福間ベッド調整不可欠

ベッドコントロール 病床を運用するための調整・管理のことで、病床管理、ベッド管理とも呼ばれる。退院情報などを踏まえてベッドを効率よく稼働させ、入院患者を円滑に受け入れる。入院収入は病院収入の多くを占めるため、大学病院や総合病院では重要な業務に位置付けている。病床削減時代への対応策として導入する事例もある。

でない。そもそも医福間の実践はまれだ。  
鳥取大病院の紹介患者が入院患者の15%を占め、重い慢性疾患や複数の合併症を抱え、さらに認知症になった症例がじわじわと増す中、診療所からの退院先はどうしても限定されてしまっている。例えば医療ケアを施す強化型老健施設は高齢者ならではの体調管理の難しさにならないことは多く、調

対策を探った。  
依さんは「医福ネットワークを形作っている真誠会グループは、在宅復帰まで必ずつなげるという大切な役割がある。入居者や家族の方が安心して生活してもらうためにはベッドコントロールはとても重要な

「です」と話す。  
医療機関から在宅(生活の場)への移行支援をどう円滑に進めるのか。その鍵を握るベッドコントロールの模索は続く。  
(米子総局報道部・山根 行雄)  
毎週土曜掲載

「入所調整は現在、米子医療センター、博愛病院から各1です」  
米子市河崎の真誠会センター、トラルクリニック(19床、小田貢院長)に隣接するゆうとびあ。テレビ会議のスカイプ中継装置を備えた二室で「ベッドコントロール情報共有の会」が毎週月曜日午前10時から開かれる。スタッフは診療所を中核

「入所調整は現在、米子医療センター、博愛病院から各1です」  
米子市河崎の真誠会センター、トラルクリニック(19床、小田貢院長)に隣接するゆうとびあ。テレビ会議のスカイプ中継装置を備えた二室で「ベッドコントロール情報共有の会」が毎週月曜日午前10時から開かれる。スタッフは診療所を中核

稼働状況と予定を詳細に報告した。ちなみにグループ全体のベッド数は409を数える。  
「スムーズな医福(医療と福祉)連携に、ベッドコントロールは今や不可欠です」。定例会をつかさどる真誠会医療福祉連携センター長の小山雅美さんが言う。  
高度医療を提供し、早期無駄な空床を削減

用を促す取り組みが裾野を広げている。  
真誠会グループは2年前に導入した。狙いは医福間に横たわる障壁の解消。急性期を離脱し早期退院したものの、すぐに在宅復帰できずに行き場を失った患者も受け入れ、総合的な医療ケアを施す診療所機能の支援には、スムーズに次の受け皿につなげる対応が焦眉の急になっていた。  
定例会開催を提案した看

でも多くの患者さんを受け入れ、患者家族に安心感を持ってもらうためにもスタッフの情報共有し、効率的な運営が求められます」  
実は依さんは、鳥取大医学部付属病院の元看護サークル情報共有は16分ほど。短時間だが、スタッフ間で交わされる情報はリサーチした患者家族の意向を踏まえ、多岐にわたった。最も時間を割いたのは、週末に利用者が集中する短期入所のベッド調整。その反動が

平日利用対策探る  
前述のベッドコントロール情報共有は16分ほど。短時間だが、スタッフ間で交わされる情報はリサーチした患者家族の意向を踏まえ、多岐にわたった。最も時間を割いたのは、週末に利用者が集中する短期入所のベッド調整。その反動が



空床などの情報を持ち寄り、医福連携でベッド調整について討議するスタッフ